

年度	2026年度
試験日	2025年9月26日(金)
学部	教育学部
入試制度	帰国生入試
試験科目	日本語

出題意図及び解答例(解答のポイント)

【注意事項】

※公開する解答例には、別解がある場合があります。

※お問い合わせいただいた内容は本学で確認し、必要がある場合には、入学センターWebサイトに掲載いたします。個別に回答することはいたしません。

※お問い合わせ先：早稲田大学入学センター nyusi@list.waseda.jp

■出題意図

早稲田大学教育学部の帰国生入試では、①教科に関する確かな基礎学力、②「教える・伝える力」の基盤となる高い論理的思考能力と言語運用能力に関する能力、および③異質な他者との関係性のなかで自ら求めて学ぶ姿勢を評価・判定します。

日本語は、資料(日本語)を読んだうえで内容をまとめる記述形式の試験とします。特に「学び」の土台となる読解力と文章表現力を重視します。

■解答例(解答のポイント)

問1 ①「公民館で行われる市民講座」

<解答のポイント>

- ・「学校外の組織的な教育活動」を問うもので、①「公民館で行われる市民講座」が明確に正解。
- ・他の選択肢(図書館の自主読書、博物館見学、部活動)は「自己教育」「文化施設の利用」「校内活動」と整理でき、誤答肢。

問2 ②確認

<解答のポイント>

- ・文脈的に「公民育成という当初の目的を「確認」している」が自然。
- ・いまさら「提案」するものでもなく、残り2つの選択肢(否定・改定)は明らかに違和感あり。

問3 祝い金の貯蓄管理や餅つきなど、公民育成という本来の趣旨から外れた取り組みがみられた千葉県の具体的事例を根拠に「成人の日にふさわしい動きが出ている」と前向きにまとめるのは、実態と評価があまりにかけ離れているため「無理やり」といえる。

<解答のポイント>

- ・本文の具体例(祝い金の管理、餅つき等)を挙げつつ、本来趣旨との乖離を論理的に説明する。

問4 ④そもそも

<解答のポイント>

- ・ここで議論を原点に戻すことを試みており「そもそも」が適切。
- ・結果を導く「したがって」、逆説「けれども」、話題が代わる「ところで」いずれも違和感あり。

問5 成人式は、敗戦によって徴兵検査や軍隊教育が消失したなか、学校を早く終え就職した若者に公民的自覚や規律を与えるための社会教育の場が必要だという判断から用意されたものだった。

<解答のポイント>

- ・敗戦後、徴兵や軍隊教育の代替として成人式が社会教育の場となった点を簡潔に要約する。

問6 成人式は現在も、成人になったことを自覚する契機である点では当初の目的を引き継いでいる。しかし、戦後直後の成人式が早期就職者に公民的自覚や規律を与えるなど、公的・社会教育的な色合いを強くもっていたのに対し、今日では装いや振る舞いに象徴されるように、私的で自己表現的な側面が前面に出ている。社会の一員としての役割を確認するよりも、人と違う自分を意識し、個性をアピールする場として機能しているといえる。